

令和3年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力を充実し、確かな学力の定着を図る。 ②学科併置の特色を活かし、学びの楽しさを実感できる学習活動を展開する。	①ICT活用を進め、基礎学力充実のための個別支援方策を追求する。 ②学科併置の特色を踏まえ、ミックス授業の拡充や探究活動の充実に向けたハイブリットなカリキュラムを構築する。	①ICTを活用した授業づくりの環境を整備し、個別支援による基礎学力定着の基盤を形成する。 ②普通科と都市農業科の生徒が交流し主体的に学ぶ工夫をするとともに教育課程を構築する。	①ICTを活用した基礎学力充実のための授業づくりを更にすすめる基盤形成ができたか。 ②入江圃場の活用等生徒が両科の科目を主体的に学ぶことができたか。 ②ハイブリットなカリキュラムを構築できたか。	①日常的にICTを活用した授業が展開されるようになった。研究授業や職員研修会もICTを話題に進めるようになった。 ② 両科の生徒が交流し学び合う授業を部分的だが展開することができた。 ② 基礎基本の充実という三浦初声基本方針を活かしたハイブリッドなカリキュラムを構築した。	①ICTの活用については授業方法だけでなく、授業内容の研究も合わせて進める。 ② 2つのキャンパス間の距離の問題を解消する方策の検討。 ② ハイブリットなカリキュラムを活かす、教科横断的な学習内容や授業展開の推進。	①ICTを活用した授業の浸透は評価できる。学びへの効果やその検証も進めてほしい。 ②入江圃場で両科の交流が進みよかった。生徒主体の組織を設置し、学科併置を活かす取組等の検討をすすめてほしい。	①授業でのICT活用は着実に定着しつつある。基礎学力充実の効果検証や個別支援の充実が課題。 ② 新カリキュラムと両科の生徒交流の基盤は構築できた。取組みの具体化が課題。	①生徒・教員・保護者がそれぞれの立場で基礎学力定着に主体的に関われるよう、データを活用した効果検証、公開授業研究等に取組む。 ②生徒主体の委員会等を設置し生徒目線での議論も深め、活用方法を検討する。
2	生徒指導・ 支援	①基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図り、支援の視点を生かした生活指導に取り組む。 ②幅広い教育活動の機会を活用し、コミュニケーション能力及び自己有用感の育成を図る。	①改訂した生活指導方針に基づき、問題行動の未然防止に取り組む。 ②新しい生活様式にも対応した行事等を通して、コミュニケーション能力及び自己有用感を向上させる。	①問題行動の未然防止に取り組み、指導と生徒への支援活動の体制を整える。 ②感染防止対策を徹底した上で、生徒の主体的参加が可能な行事を立案、実行する。	①指導と支援の一体化に向け、チームで連携し未然防止に取り組めたか。 ②感染対策を十分に実施できたか。また、行事により生徒の充実感や能力の向上を確認できたか。	①問題行動の未然防止の呼びかけや近隣対応や巡回により指導と支援を充実させた。 ②手指消毒・黙食等の指導により、感染対策の意識を高め効果を上げた。開催形態を工夫した行事により、生徒の充実感、自己有用感・コミュニケーション能力を向上させた。	①声掛けや校内外巡回の継続。生徒自身がルール遵守等の意識を高められるように粘り強い指導を継続。 ②感染対策を継続する中で、気が緩まないよう丁寧な声掛けを継続。感染対策と行事の両立について、さらに工夫した方策を検討。	①効果を上げていることは評価できる。地域との連携やPTAとの協力等、引き続き粘り強く指導を継続されたい。 ②コロナ禍でコミュニケーションも難しいと思うが、メンタル面でのケア等も含め様々な工夫に取り組んでほしい。	①問題の未然防止に取り組む徐々に成果を上げている。一部生徒の意識改善のための支援と指導の充実が課題。 ②感染対策の徹底と開催形態を工夫し文化祭やスポーツフェスティバルを実施できた。工夫を重ねさらに充実させる。	①生徒の支援や問題行動未然防止の効果を高めるため、地域住民やPTAと連携・協力して指導支援を充実させる仕組みを作る。 ②ウィズコロナでの学校行事等について、生徒アンケート結果等を反映し、満足度や諸能力向上にいかす。
3	進路指導・ 支援	①地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材の育成に向けて、生徒が自ら目標を設定し主体的に取り組むことができる進路指導の充実を図る。	①キャリアパスポート等の活用や、インターシップ・ボランティアを充実させることで、希望進路実現に対する生徒の主体性を高める。	①キャリアパスポートを活用し自己理解を深めて、進路を考えさせる。 ①担任指導のもと進路希望調査や面談を行い、希望進路に向けて主体的に取り組ませる。	①キャリアパスポートを自己理解のために活用できたか。 ①進路希望調査と面談（二者・三者）を行えたか。 ①依託実習に主体的に取り組む職業適性を理解させることができたか。	①中学校のキャリアパスポートや高校用冊子を活用し振り返りを行った。全年次で定期試験を活用した現状把握や目標設定により進路意識を向上させた。 ①放課後や長期休業等を利用した保護者も含めた面談により、生徒の状況把握や進路相談に効果を上げた。 ① インターシップ 42名参加。（コロナ禍で若干減少）	①中学校のキャリアパスポートの引き継ぎを含めキャリアパスポートの各年次での計画的な活用の検討を進める。 ①計画的継続的な面談実施のための時間確保（面談週間等）を模索する。 ①依託実習へのより主体的な参加を推進する方法を継続して検討する。	①今後もキャリアパスポートを有効活用し、一人一人に寄り添った支援を期待している。 ①将来の展望が見出しにくい時代なので、インターンシップ等自身の適性を理解する機会に、多くの生徒が参加できるよう指導をされたい。	①キャリアパスポート等を活用し進路意識を向上させたが、各年次のより有効な継続的な指導方法を検討する。 ①丁寧な面談は実施できたが、効果的な進路指導のための面談時間の確保が課題 ①インターシップ等への積極的参加者勧誘。	①中学校のキャリアパスポート活用も含め、高校3年間を見通した継続的な進路指導計画を再構築する。 ①進路指導計画の一環として効果的に実施するため面談計画を全職員で共有する。 ①インターシップ等の事前説明会や事後指導の充実。
4	地域等との 協働	①地域の特性を理解し、地域とのかかわりを持ち貢献することで、自己有用感・自己肯定感や社会性を育む。 ②地域の教育力を教育活動に活かす。	①地域貢献活動やHP等での情報発信を充実させ、地域の教育力を教育活動に活かす体制を構築する。	①地域貢献や地域連携の成果を広くアピールし、連携の深化や拡充を進め生徒の活動の場を広げる。	①地域貢献や地域連携の成果をHP等で発信できたか。 ①地域の支援により生徒の活動の場を広げられたか。	①「産農人」プロジェクトを継続して発信することができた。 ①コロナ禍の活動制限により地域との連携活動を実施することができなかった。	①情報発信の方法について、HPを含め継続して改善を図る。 ①今後の感染状況に応じ、ウィズコロナ下での地域貢献活動方法を模索する。	①「産農人」プロジェクトの活動は学びへのモチベーションアップにつながっていて評価できる。 ①地域交流の早い再開やPRを期待する。	①「産農人」プロジェクトの継続と学校内外のより効果的な情報発信。 ①ウィズコロナでの地域交流・貢献活動方法の検討と再開。PRの工夫。	①「産農人」プロジェクトの校内発信方法の工夫。普通科生徒への意識啓発と参加プログラムの構築。 ②生徒主体の地域交流・貢献活動体制の構築とHPの充実。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①両キャンパスの環境や連絡・防災体制を整備し、安心安全で信頼される学校づくりをする。 ②生徒にとって生き方のモデルとなるようなワークライフバランスを充実させる働き方を実現させる。	①両キャンパスの避難訓練を通じ様々な災害に対応した防災体制を構築する。 ②業務の効率化を進め、勤務時間を意識した心身ともに健康で安全で安心な働き方を追求する。	①両キャンパス間の防災体制理解を深め、両学科合同の避難訓練を実施する。 ②業務内容の精選を図ると共に業務量の均等化や、ワークライフバランスの重要性の意識を高める。	①両キャンパス間の防災体制理解を深め、両学科合同の避難訓練が実践できたか。 ②長時間勤務の職員が少なくなったか。職員の健康状態が向上したか。	①コロナ禍の活動制限により、全体の避難訓練を見合わせ、年次ごとに防災訓練を実施した。 ②定期的に産業医や管理職との面談等を設定し、長時間勤務改善に取り組み効果を上げた。	①両キャンパス間の防災体制の整備と合同避難訓練の実施を図る。 ②業務の精選、業務量の均等化等、全職員への継続的な意識啓発を衛生委員会も活用し継続して展開する。	①津波に対する訓練や避難マップの活用等評価できる。「安全・健全・安心」な学校運営を継続されたい。 ②教員の各種（タイム・ヘルス・業務）マネジメント能力の育成も重要。	①年次別防災訓練は実施できたが、津波を想定した両キャンパス合同避難訓練実現が課題。 ②長時間勤務改善の意識啓発はできたが、業務精選等全職員による継続的な取組みが課題。	①津波災害に備え、両キャンパス合同避難訓練を着実に実現するため、段階的・継続的な訓練の開始。 ②衛生委員会や企画会議等が主導し、同僚性の醸成や職員の各種マネジメント能力伸長に取り組む。